

月夜梅花を見る（菅原道真）

月耀如晴雪 梅花似照星
可憐金鏡轉 庭上玉房馨

月耀は 晴雪の如く

解説 この詩は菅原道真が十一歳で初めて詠んだものです。道真少年は五歳にして、「美しや紅の色なる梅の花あこが顔にもつけたくぞある」の歌を詠んだと言われています。子供のころから梅の花が好きだったと思われまます。

梅花は 照星に 似たり

語釈 ※月耀 月の輝き。 ※照星 星のきらめくさま。 ※金鏡 月の異称。 ※玉房 美しい花房。

憐れぶべし 金鏡 轉じ

通釈 月の光は晴れた日の雪のようで梅の花は輝く星に似ているなんとすばらしいことだろう 黄金色の月が移動するにつれ庭では白い梅の花が香ってくる。

庭上 玉房 馨し